2023年4月7日

2023年11月期　第１四半期（2022年12月1日～2023年2月28日）

決算補足説明資料

大阪有機化学工業株式会社

東証 プライム：4187

2023年11月期　第１四半期決算概要

外部状況

新型コロナウイルス感染症による社会活動の制約が緩和され、経済活動は正常化に向けて動き始めました。しかしながら、原材料価格の高騰や急激な為替相場の変動、長期化するウクライナ情勢等、先行き不透明な状況が続いています。

売上高

機能化学品事業は堅調でしたが、ディスプレイや半導体などの需要低迷の影響を受け、化成品・電子材料事業の売上高が減少しました。この結果、売上高は前年同四半期比15.4％減少し、68億7千万円となりました。

営業利益

売上高の減少や原燃料価格の高止まりなどの影響により、営業利益は、前年同四半期比39.6％減少し、10億5百万円となりました。

（百万円）

	2022/11 1Q実績	2023/11 1Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	8,125	**6,870**	△1,255	△15.4%
営業利益	1,665	**1,005**	△660	△39.6%
経常利益	1,733	**1,040**	△693	△40.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,211	**726**	△485	△40.0%
国内ナフサ（￥/KL）	64,600	**68,000**	—	—
為替（￥/＄）	115	**133**	—	—

2023年11月期　第１四半期決算概要

化成品・電子材料事業の売上高の減少や、燃料費・電力費の増加により、営業利益は前年同四半期に対し、6.6億円減少しました。

売上高の減少
△12.5億円

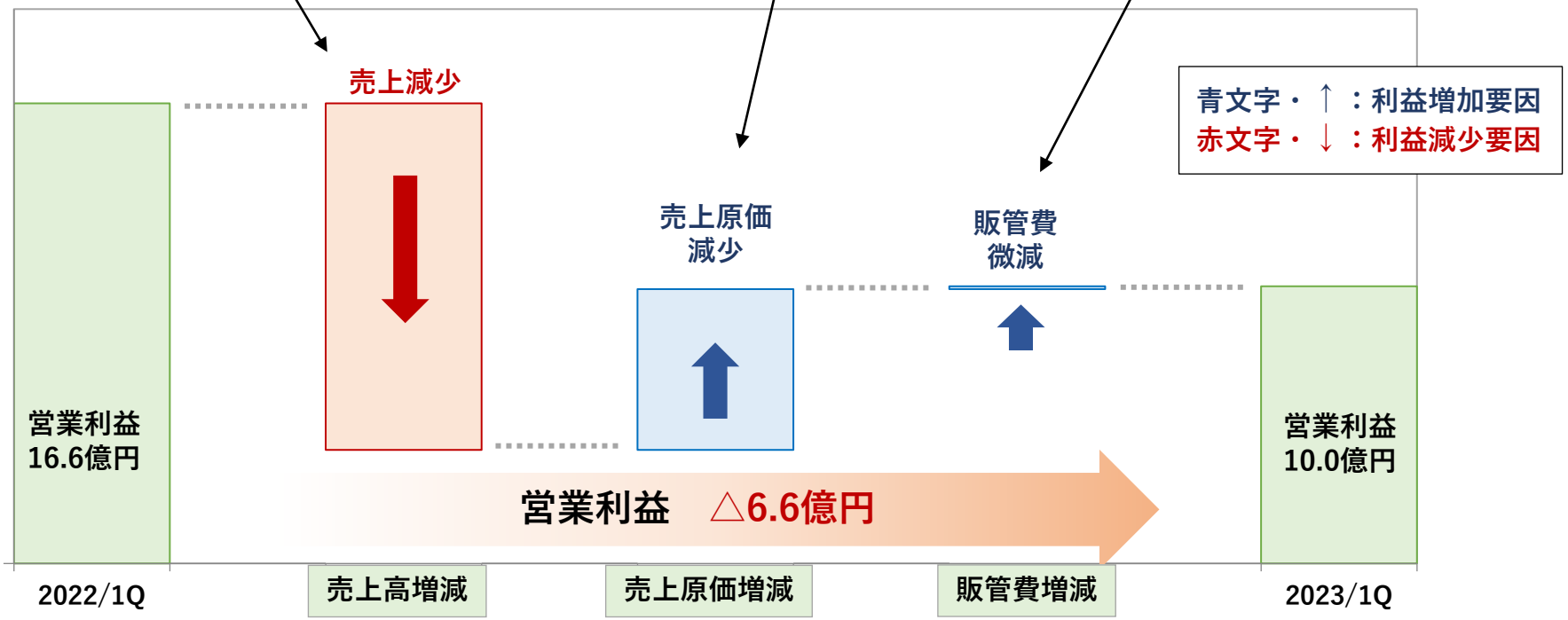
化成品	△7.2億円
電子材料	△6.3億円
機能化学品	＋1.0億円

売上原価の減少
△5.8億円

原材料費減	△6.5億円
燃料費・電力費増	＋0.7億円
減価償却費減	△0.2億円
	他

販管費の減少
△0.1億円

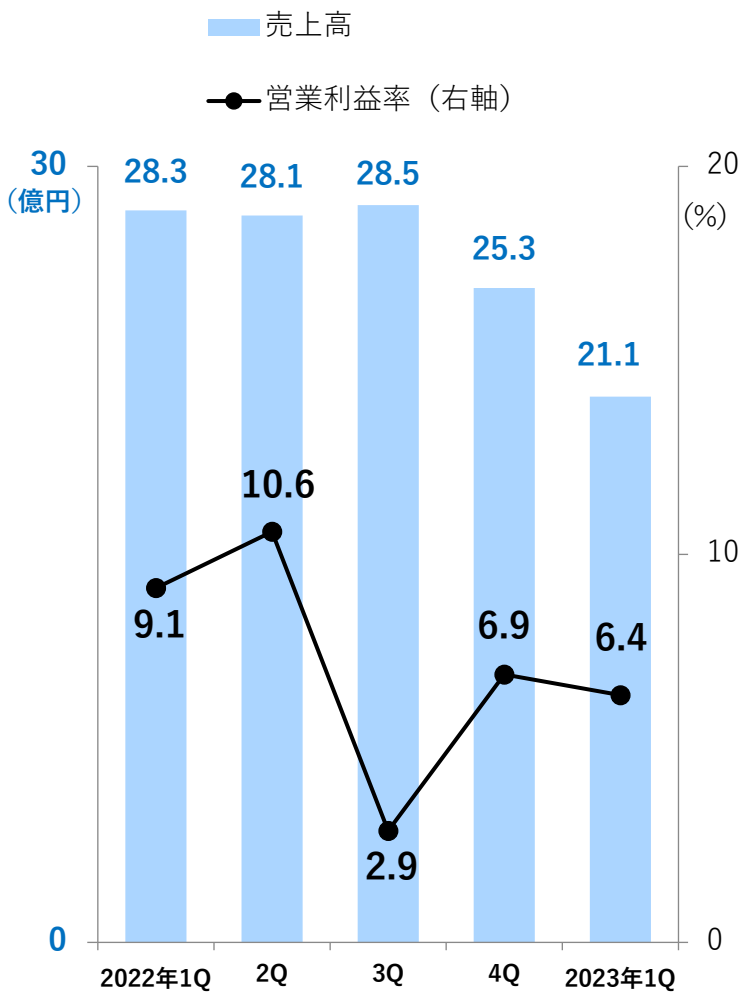
運送費減	△0.1億円
	他



化成品事業

1Q 売上高	2023年 通期予想	進捗率 vs 通期予想
21.1億円	（4月7日修正予想値） 94.7億円	22.3%

売上高・営業利益率



●外部環境

・コロナ禍による規制が徐々に緩和され、経済活動は持ち直しの兆しが見えるが、原燃料価格の高騰が、企業の利益を圧迫する状況が続く。

●当社の状況

・自動車用塗料向けの販売は、堅調に推移。
・ディスプレイ用粘着剤向けや、UVインクジェット用インク向け材料が低調に推移。

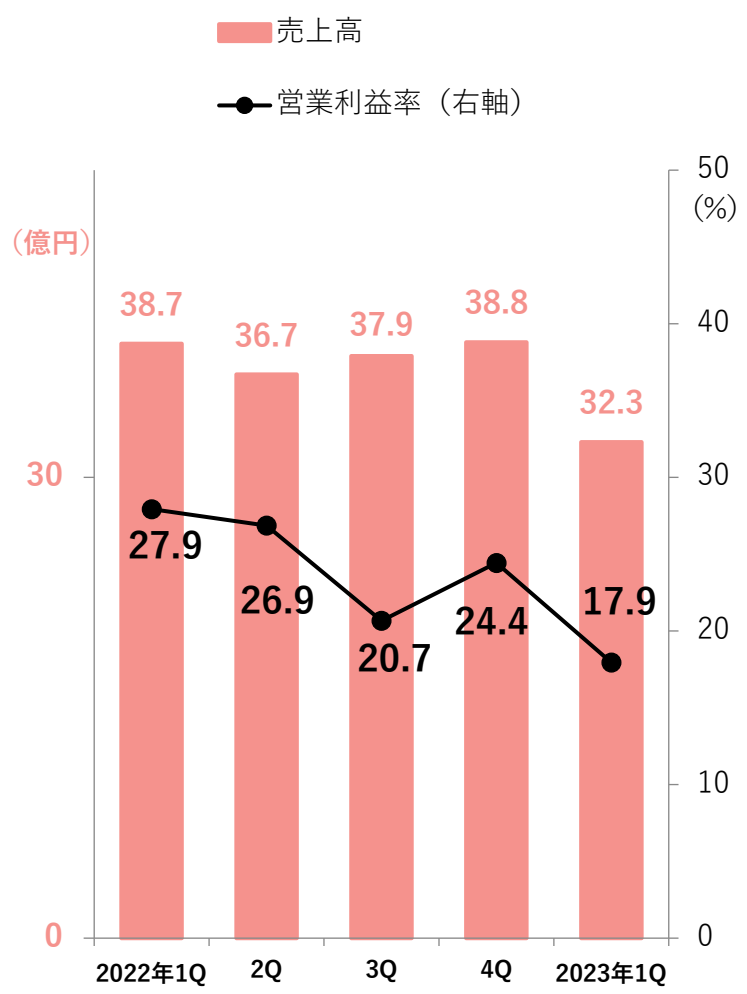
●市場におけるリスク

・原油価格の高止まり。
・天然由来原料相場の高騰。

電子材料事業

1Q 売上高	2023年 通期予想	進捗率 vs通期予想
32.3億円	(4月7日修正予想値) 134.1億円	24.1%

売上高・営業利益率



●外部環境

・2023年の半導体市場はマイナス成長が予測される中、半導体市場の市況悪化が顕著となる。
・最先端のEUV材料は実用化が進展。
・低迷が続いているディスプレイ市場は緩やかな回復傾向がみられる。

●当社の状況

・主力のArFレジスト用原料の販売が末端市場の需要が軟調となり横ばいで推移。
・表示材料グループは、ディスプレイの需要の低迷により販売が低調に推移。
・EUV用途の材料は引き続き順調に推移。

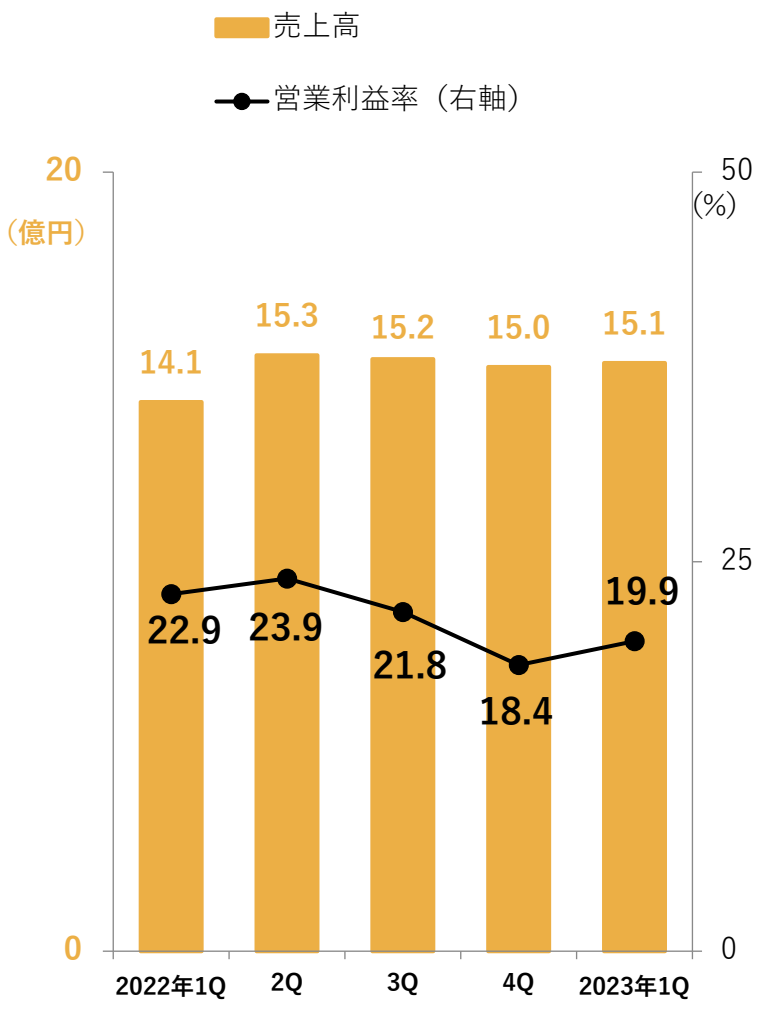
●市場におけるリスク

・米中経済対立の激化。

機能化学品事業

1Q 売上高	2023年 通期予想	進捗率 vs通期予想
15.1億円	（4月7日修正予想値） 61.0億円	24.8%

売上高・営業利益率



●外部環境

・中国の化粧品市場はコロナ禍でも拡大。
・化粧品の国内市場もスキンケアを中心に回復基調。

●当社の状況

・化粧品原料の販売は、海外で好調に推移。
・機能材料グループは、受託品の販売が低調に推移。
・子会社の高純度特殊溶剤の販売は堅調に推移。

●市場におけるリスク

・中国市場における新興メーカーの台頭。

＜見通しに関する注意事項＞

• 本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

• 従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】
管理本部　IR・広報担当
TEL　06-6264-5071（代表）